

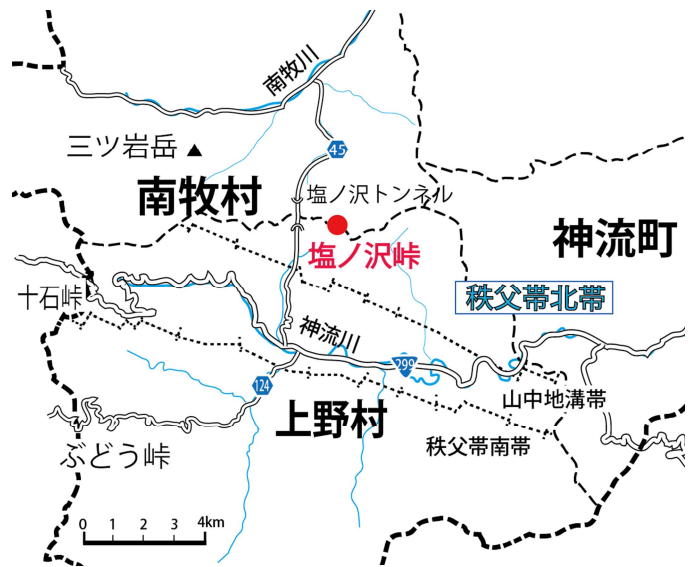
# 幻の塩ノ沢石灰岩

1950(昭和25)年、南牧村と上野村の境、塩ノ沢峠南西の林道沿いで、  
ちゅうせいだいさんじょうきぜんき  
中生代三疊紀前期のイタヤガイの仲間(学名 *Eumorphotis multidormis*)の貝化石を含む石灰岩「塩ノ沢石灰岩」が発見されました。貝化石は径2メートルほどの石灰岩に密集して含まれていました。



*Eumorphotis* は、塩ノ沢以外に、宮城県・京都府・山口県・高知県・愛媛県・熊本県などで発見されていますが、特に高知県なんこくし くらたきいずみがたに南国市の黒滝泉が谷では塩ノ沢と同様の石灰岩「黒滝石灰岩」が知られています。

塩ノ沢周辺の地層は、中生代ジュラ紀の海の地層が大陸側にはりつき隆起した付加体ふかたいの地層です。この時取り込まれた石灰岩の多くは古生代のものですが、塩ノ沢石灰岩は中生代三疊紀のもので、とても希少です。



『上野村誌 上野村の自然編』を参考に作成

塩ノ沢の化石が中生代三疊紀の希少なものであると最初に気づき、現地調査した鹿間時夫は次のように述べています。

「化石の密集する岩塊は2×1.7m大の灰白色石灰岩で…中略…保存みちの途を考えないと早晩煙滅そうばんえんめつすると思われる。」

不幸にも鹿間の予想は的中し、現在では、塩ノ沢石灰岩は取りつくされ幻の石灰岩となってしまいました。展示品は山中地溝帯を永年研究してきた武井暁朔氏から寄贈していただいた貴重な標本です。